



聖マリア学院同窓会会報

Vol. 28

編集発行人／聖マリア学院同窓会 発行所／〒830-8558 久留米市津福本町422番地 印刷／小野高速印刷株式会社

発行：令和3年8月吉日



ご挨拶
学校法人聖マリア学院 同窓会会長
蓑田ヒロキ（看護専門学校1科8回生）

聖マリア学院同窓会会員の皆様には、日頃より、同窓会活動

へのご理解とご協力を賜り、深く感謝申し上げます。皆様におかれましては、コロナ禍の大変な中、在学生に対する経済的支援策としてご寄付をお願いしたところ、多くの方々より温かい支援を頂き誠にありがとうございました。同窓生の皆様より頂戴しましたご厚情は、支援を必要とする学生さんへの奨学一時金として給付させて頂いております。看護を志そうとする学生さんが、今回の新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、看護の道を断たれることがないように、これからも同窓会として

可能な限り支援していきたいと考えております。

さて、新型コロナウイルス感染症のパンデミックにより、世の中は大きく変化しております。緊急事態宣言の発出等により、これまでの生活に多くの制限を強いられ不自由に感じるところも多々あります。そのような中、ICT化が加速し、学校も対面からオンライン講義へ、昨年度より聖マリア学院の病院見学会や採用試験もWEBでの開催となりました。

同窓生の皆様は例年になく、Public Health mindedということを自覚されたのではないのでしょうか。本学の設立母体である聖マリア病院は、当時の国民病である結核対策の病院としてスタートしました。また病院としては非常に珍しく、検診事業等の公衆衛生活動を病院付設部門として設置したバイオニアでもありました。これ等の活動はその後、国内のみならず、JICA等と連携し世界各国での国際保健医療協力を行う先進的病院へと発展しました。本学では、この姿勢を受け継いでおり、



Public Health minded
じゅあにん
学校法人聖マリア学院理事長／聖マリア学院大学学長
井手 二郎

教育のバックボーンにはPublic Health mindedという基本姿勢があるのです。

さて、新型コロナウイルスのパンデミックと言えば、丁度10年程前の新型インフルエンザのパンデミックを思い出される方も多いかと思えます。我が国では余り深刻な結果では無かったと感じている方が多いのですが、世界を見渡せば、老人や妊婦等において深刻な結果を招いた国々がありました。また、約1000年前にもインフルエンザの新型のパンデミックがありました。当時の世界人口の約1/3の5

けています。しかし、観光客がいなくなったことで、海の透明度はおよそ60%改善、さらに大型の魚が湾に入ってくるようになり、生物の種類が増えたとの嬉しいニュースも耳にしました。

日本においても、地球温暖化により、毎年全国各地で甚大な自然災害が発生しております。4月22日はアースデイ（地球の日）、私達にとって、切っても切り離せない関係にある「地球」の環境について考え、行動する日です。今ある自然環境を次世代へ残すために、私達一人ひとりが取り組める活動は沢山あり、これまでの私達の生活様式を見直すチャンスだとも言えます。

憶人が感染した、いわゆる「スペイン風邪」禍の全世界への社会的影響は甚大でした。その記録内容を見ますと、添付写真にはコロナ禍対応の現在のマスク姿と同様な写真が掲載されています。当時は、ワクチンはありませんでした。多くの死者が出ました。大きな社会的混乱をもたらしました。しかし残念ながら、その危機感は引き継がれなかったようです。今般、再びウイルスの逆襲があり、その脅威がここまで社会全体に影響を及ぼすとは、多くの方々には想像できなかったと思います。

の自らの健康管理に留意下さり、そして、弱き病者や入所者の方々の為に全力を尽くして踏ん張って下さる様に願う次第です。

本学の図書館の塔には Misericordia（慈しみの心）の鐘が設置されています。奮闘する保健医療従事者の為に、そしてこのコロナ禍が終息する様に、多くの教会の鐘と共に、我々の Misericordiaの鐘も毎週金曜日の午後2時から鳴り響いています。

さあ、前へ進みましょう！



者や同僚そして家族にも不利益を与えないように日々業務に携わっておられると思います。また、入院患者やその家族にとっては、面会制限によって重篤な病状においても自由に面会が許されず、本当に辛い療養環境となっております。この難局を乗り越えるためには、必死に頑張る自分自身を思いやり、愛おしむことを忘れずに努めていくことが大切だと感じます。新型コロナウイルスワクチン接種が進み、一日でも早く、感染の収束が訪れますことを祈ります。



ご挨拶
学校法人聖マリア学院 学院長
井手 信

卒業生の皆様
お元気で過ごしていきましょう。一昨年末に始まった新型コロナウイルスのパンデミックな感染拡大は全世界で100年に一度という大惨事を引き起こし、ワクチン接種が始まったもののウイルスはさらに変異を繰り返しています。グローバル社会の中で人々の健康が保証され、人間としての尊厳が保証されるには元通りの経済活動を望むだけでは到達できないということに皆様気付いておられるでしょう。コロナ病棟、後方支援病院でケアに携わっておられる方々、また、県や市町村の行政機関で地域住民のために奮闘しておられる卒業生の皆様の無私

の看護を耳にし、皆様方の安全を祈るばかりです。介護ケアに携わっておられる皆様も高齢者あるいは障がい者の方々の健康を保持するためにこれほどの感染防御に心を配られたことはいずれでしょうね。このような感染防御体制の中で、私たちは人間の尊厳を守ることに意味を模索しています。聖マリア学院で学んだように、人間は理性と自由意志を持った存在です。コロナ禍でこれらの人間の特性を奪われて初めて理性と自由の意味するところを実感した方もあるでしょう。院内での隔離や施設でのソーシャルディスタンス確保のために、危機状態にある人々に寄り添う事の困難さを十分経験した皆様は、感じ、考え、全人的な視野と対象に合わせた独自のケアの工夫を図ること、患

者さん、利用者の方々と共に危機を乗り越えるケアこそ、カトリックの愛の精神に基づく尊厳を尊重したケア／ケアリングであると思えます。一日も早くコロナが終息するよう心を合わせて祈りましょう。

新型コロナウイルス感染症に苦しむ世界のための祈り

いつくしみ深い神よ、
新型コロナウイルスの感染拡大によって、今、大きな困難の中にある世界を顧みて下さい。

病に苦しむ人に必要な医療が施され、
感染の終息に向けて取り組むすべての人、
医療従事者、病者に寄り添う人の健康が
守られますように。

亡くなった人が永遠の命に迎え入れられ、
尽きることのない安らぎに満たされます
ように。

不安と混乱に直面しているすべての人に、
支援の手が差し伸べられますように。

希望の源である神よ、
わたしたちが感染拡大を防ぐための犠牲
を惜しまず、

世界のすべての人と助け合って、
この危機を乗り越えることができるよう
お導きください。

わたしたちの主イエス・キリストによって。
アーメン。

希望と慰めのよりどころである聖マリア、
苦難のうちに在るわたしたちのために
お祈りください。

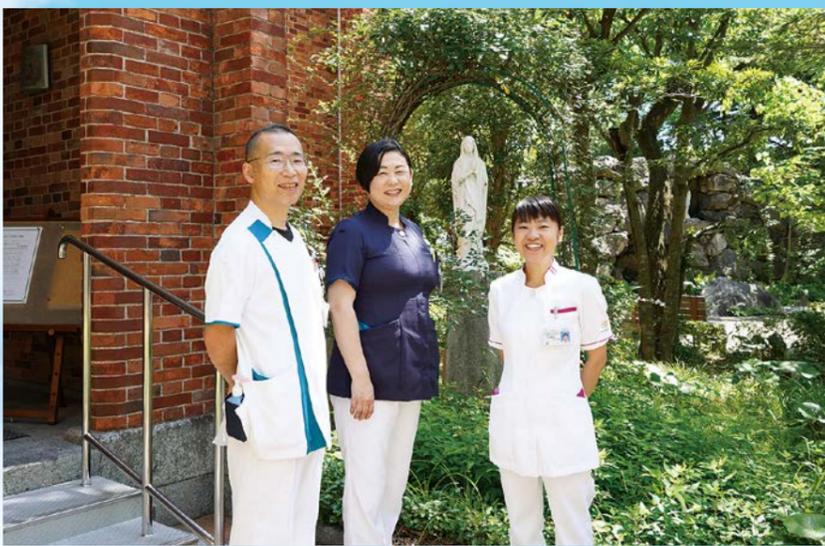
（2020年4月3日）
日本カトリック司教協議会認可

感染管理認定看護師として

工藤 明香 (短大12回生)

私は、学院卒業後、聖マリア病院に就職し循環器病棟、手術室勤務を経て現在は、医療の質管理本部に所属し感染管理認定看護師として、患者さん・医療従事者・地域の方々に感染伝播のリスクから守る仕事をしています。

病院内外を組織横断的に活動し、①マニュアル等の整備②感染症患者数の追跡調査と分析・対策の立案③患者さん・医療従事者・地域の方々への感染対策教育④手指衛生、個人防護具着脱等の感染防止技術の確立⑤職員の健康管理⑥感染管理に関する相談対応⑦感染対策上の設備面の整備などを実施し、その役割を果たすように努めています。感染は目に見えないために、細



聖マリア病院感染管理認定看護師 3名

菌やウイルスの他に「恐れ」も伝播します。従って「差別・偏見」も拡大しやすいのでは、と思います。現在、COVID-19の件もあり、正しく感染症を理解し、正しく「恐れ」、適切な感染対策を実施する事が重要となっています。感染対策の実行は一人では出来ません。皆で「手指衛生」等の感染対策を実施するチームワークが必要であり、「感染拡大防止」には「ひとり」はみんなのために、みんなはひとりのために」をモットーにチームで立ち向かうことが大切です。この状況の中で私が思うことは、様々な方々に支えられているということ、感謝の気持ちを忘れないことです。



聖マリア病院手洗いキャラクター
手洗い天使 アワオくん



院外イベントでの手洗い教育

感染症病床稼働訓練



患者・家族サポートセンター

患者・家族サポートセンター副センター長兼副看護部長
聖マリア看護専門学校 1科9回生

山田 佐恵美 (旧姓：松尾)

昨今の新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、あらゆる面で制限される生活となっておりますが、皆様いかがお過ごしでしょうか。報道でもありますが、皆様が続いておられます。そのような中ではありますが、聖マリア病院では令和3年4月1日、外来棟に、「患者・家族サポートセンター」が開設しました。外来で入院決定時から入院についての支援を行う「入退院支援室」、必要に応じて入院前・退院後にご自宅への訪問や、適切な機関へ連携等を行う「訪問生活支援室」、地域医療機関と

の連携を行う「地域連携推進室」、入院ベッドの調整を行う「病床管理室」の4室から成ります。入退院支援室は個室が8室あり、プライバシーが保てるよう配慮しています。そして一人ひとりの患者さんの状況・状態に応じて多職種(看護師・各認定看護師・薬剤師・栄養士・医療事務・ソーシャルワーカー等)で連携し、入院前から退院後まで携わらせていただきます。住み慣れた地域の中で、安心して療養生活を送れるよう、患者さん・そのご家族を医療・介護・福祉の面から支援させていただきます。

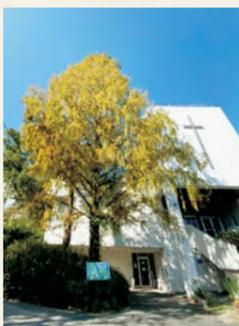


母校探検!

スタート!



2号館
現在ある校舎の中で一番古い建物です
今は事務室とパソコン室等の他、オンライン授業の配信教室となっています



3号館
在宅看護実習室

5号館
1階 食堂
2階 講義室
3階 実習室



6号館
体育館

橋を渡ってお隣へ!



7号館 (大学院)



その先に進むと
図書館
2017年に完成!



やいば進むと
立派な正門!



ゴール!



同窓生の近況報告

柳本 朋子
(旧姓：馬田) (1科8回生)

助産学科修了後、聖マリア病院、聖マリア学院短期大学、診療所に勤務し聖マリア学院大学に就職しました。その後20年ぶりに臨床に戻り、分娩介助等を再び経験して、4月からまた新たな気持ちで聖マリア学院大学に勤務しています。これからも臨床での経験や学びを活かして学生と学び続けたいと思っています。



金山 萬紀子
(短大1回生)

コロナ禍で働き方や生活が制約されることも多々ありますが、聖マリア学院の卒業生21名の仲間とともに、コロナに負けず、あかるく前向きにリハビリテーション看護の日々を頑張っています。



石橋 喜子
(旧姓：岩永) (短大4回生)

学院を卒業して聖マリア病院に就職し、早いものでまもなく30年になろうとしています。整形外科や外科などの急性期に長く勤務しましたが、現在は患者・家族サポートセンターの訪問生活支援室で室長をしております。



この部署は今年4月に新設され、患者さんが安心して入院できるような、入院前からの支援、また退院後地域での生活を穏やかに過ごす事が出来るよう、退院後の支援を行っています。まだ出来たばかりの部署ですが、患者さんやそのご家族の希望に応える事ができるよう頑張っております。

稲葉 君枝
(旧姓：平井) (短大4回生)

卒業して29年が経ちました。現在、千葉県市川市の個人病院に勤務しております。日進月歩の医療現場では、過去の常識が非常識となり、見識を改めるべき事が多々あります。このコロナ禍においても、筋肉注射の接種部位に対する解剖生理学的認識を新たに臨みながら、知識を検証する姿勢を常に忘れずにと初心に帰る今日この頃です。



郡山 和美
(旧姓：宮崎) (短大4回生)

私は、短大の看護科を卒業後、久留米大学病院に就職し29年目となります。救命、透析、集学などの経験を経て、現在は、地方の関連病院に勤務しています。育児や親の死別など自分の経験を基に患者、家族の退院支援に関わっています。



長谷 大輔
(短大15回生)

2003年に聖マリアを卒業後、福岡市民病院で勤務すること17年。現在は5年前に手術看護認定看護師となり、実践指導や管理の仕事をしておりまなりまなりましたが、家族旅行やアウトドアの趣味を満喫し充実しております。



田畑 有貴
(大学8期生)

COVID-19罹患患者を見ていく中で、誠意を尽くしても増悪し最終的に亡くなられる患者様も多いのが現状です。感染面や知識面でも自分の未熟さを思い知らされる事ばかりで手探り状態の毎日です。コロナ禍で看護師として出来る事は限られていますが、変わらずに真摯に患者様に向き合っていくことが大事だと痛感しています。



今村 あや
(大学9期生)

近年の新型コロナウイルス感染拡大により、国民は制限のある生活を過ごすことになった。医療従事者である私たちは免疫力の低下している患者さんが罹患しないよう、より一層感染対策を徹底し、私生活でも感染しないよう、菌を院内に持ち込まないように神経をたがらせていたと思う。それはとてもプレッシャーのかかる生活であったが、幸い現在までクラスターが発生することなく過ごせている。私は直接コロナ感染患者へのケアに関わることはなかったが、間接的にも患者の健康をまもることに寄与出来たのではないかと考えている。今後も厳しい状況が続くことが予想されているが、自分の身近な存在、患者の健康を守るために尽力していきたいと考えている。



金子 歩未
(大学9期生)

コロナ禍において医療現場は大きく変わりました。私が働く聖マリア病院



ICUでも受け入れを行っており、多くの患者様が入院しています。比較的、人工呼吸器やECMOなど導入される方が多いです。医療現場では日々厳しい状況が続いておりますが、一緒に乗り越えていきましょう。

吉武 伸華
(大学9期生)

私は元々外科病棟に所属していたのですが、5月より新型コロナウイルス感染症専用病床に移動となりました。コロナが流行し始めた時から、対応して下さっていた看護師さん達はとても大変な思いをされながら、看護されていたのだと改めて感じました。コロナがこれ以上拡大しないように私も新型コロナウイルス感染症専用病床で頑張っていきたいです。



長 美代子
(介護2回生)

卒業して約23年経ちました。現在、ケアプランサービに所属し介護支援専門員として勤務し日々勉強しています。要介護状態の方が在宅で生活するにあたり、介護サービスの提案や様々な相談や情報提供を行っています。相談件数も多く毎日非常に忙しいですが、とてもやりがいがあります。私生活では、高校生を筆頭に3人の子供たちに囲まれて大変ですが楽しく頑張っております。



同窓生の皆様へ (御礼)

この度は、コロナ禍での在学生に対する経済的支援策の一環として、寄付金を募集しましたところ、多くの方々より温かいお申し出をいただきました。ここに改めて、感謝申し上げます。

緊急事態宣言の延長など、コロナ長期化の影響が社会問題となる中、生活費としてのアルバイト収入が減少した学生や一人暮らしの学生を含め、様々な環境下にある学生への支援が求められています。

〈奨学金受給に際し〉 学生からの申請書より、抜粋・要約

- ① 緊急支援金を全学生が受給できることではないこととの認識下、一層、学習に励みたい。
- ② 金銭面での悩みやストレスが軽減された。これを機に勉学に集中したい。
- ③ アルバイトできない状況にあつて、教科書代や交通費に充てたい。
- ④ 就職準備の為に必要物品の購入費・移動費に充てたい。
- ⑤ コロナで学生生活が一変し、普通に思っていた授業環境に改めて有難みを感じた。
- ⑥ コロナ禍、連日の報道で、医療現場の窮状と、自身

同窓生の皆様、並びに本学教職員、また一般の方々より頂戴しましたご厚情は、支援を必要とする学生への奨学金として給付させていただきましたこと、報告申し上げます。受給対象となった学生(皆様の後輩)の声を、一部ですが抜粋、要約しお届けします。ありがとうございます。

2021年2月12日
聖マリア学院 同窓会
聖マリア学院 募金事務局



(写真はイメージです/本学公式Web) 出典 (FBより転載)



第44回

聖マリア学院同窓会総会【開催報告】

令和元年7月7日(日)の総会で「今後2年ごとの同窓会総会開催」と決議されました。毎年心待ちにされていた同窓生方からは、「大変さみしく残念な気持ち」というご意見もありました。惜しまれながら2年ごとの同窓会総会開催になりました。

特別講演においては、腎移植の現状についてというテーマで講師は、聖マリア病院でレシビ

エント移植コーディネーターとして活躍して頂いている荒巻和代先生よりコーディネーターとしての活動をご紹介して頂きました。その中で、移植を経験されたレシビエント2名の方より御講話頂きました。貴重な経験談を伺い、涙されている方も多く患者の気持ちに触れた良い機会となりました。

第45回

聖マリア学院同窓会総会【書面開催】

総会より2年が経過しました。同窓会総会は、今年度の予定でした。同窓生の皆様には、今年こそはと心待ちにして頂いていた方も多いことと思います。しかし、昨年より新型コロナウイルス感染症が感染拡大し、緊急事態宣言を受け、まん延防止措置のため今年度もやむなく対面形式での開催は、中止せざるを得なくなりました。本来ならば、総会の会場において報告すべき

ところですが、今年度は会報の書面上での提示となりますこと、皆様のご理解の程をお願いいたします。本件について、ご意見・ご質問がある場合は、聖マリア学院ホームページの同窓会事務局へご連絡頂きますようお願い致します。尚、令和3年10月末日までに、特段のご連絡無き場合は、本件をご了承頂いたものとさせていただきます。

報告事項

令和2年度活動報告

- 4月 入学式(参列なし)
- 5月 評議員会出席
- 6月 同窓会からの修学支援寄付
- 10月 召命のつどい(参列なし)

- 同窓会のFacebook開設
- 修学支援寄付金募集
- 事前会費振り込み用紙送付(後期校納金にて)
- 12月 評議員会出席
- 3月 卒業式(参列なし)
- 評議員会出席

令和2年度決算報告(別表1)

審議事項

議案1

- 4月 入学式(参列なし)
- 5月 評議員会出席
- 8月 同窓会会報28号発行

- 役員交代、役員引き継ぎ
- 10月 召命のつどい参列
- 12月 評議員会出席
- 3月 卒業式参列
- 評議員会出席

*定期的にFacebook投稿

議案2

令和3年度予算(別表2)

令和3年度同窓会新役員

会長

樋口由美子(2科11)

副会長

上岡 和代(短大8 地域8)

古賀 由紀(短大4 助産4)

久保山 守(短大15)

会計・書記

江山 杏奈(大学9)

大鶴 真琴(大学10)

総会準備

善家 恵美(短大15)

中里 有希(大学8)

櫻井 涼太(大学6)

中島 啓二(介護1)

出版

金子 歩未(大学9)

松永 知穂(大学10)

事務局

石井 和弘

(聖マリア学院事務局長)

令和2年度決算【別表1】

期間：2020年4月1日～2021年3月31日

前年度繰越	2,473,997	次年度繰越	2,665,334
総収入金額	763,905		
総支出金額	572,568		

令和3年度予算【別表2】

期間：2021年4月1日～2022年3月31日

前年度繰越	2,665,334	次年度繰越	2,825,334
総収入金額	1,100,000		
総支出金額	940,000		

収入内訳

項目	予算	決算	増減	備考
入会金	1,000,000	480,000	△520,000	
総会参加費	0	0	0	開催なし
祝い金	0	0	0	開催なし
雑収入	0	18	18	利息
寄付金	0	283,887	283,887	同窓会員寄付金+前委員より
合計	1,000,000	763,905	△236,095	

収入内訳

項目	前年度決算	予算	増減	備考
入会金	480,000	1,100,000	620,000	令和3年度入学生 110名予定
総会参加費	0	0	0	総会予定なし
祝い金	0	0	0	総会予定なし
雑収入	18	0	△18	
寄付金	283,887	0	△283,887	
合計	763,905	1,100,000	336,095	

支出内訳

項目	予算	決算	増減	備考
総会費用	0	0	0	会場費、講師謝金、来賓・参加者景品
会議費	120,000	36,000	84,000	会議8回開催予定
会報28号発行	0	304,568	△304,568	会報28号の発行無し 学院の広報誌代金を折半
学院記念行事	120,000	232,000	△112,000	入学式・卒業式・お祝い・お花・学院への寄付(20万円含む)
事業費	0	0	0	
雑支出費	10,000	0	10,000	
合計	250,000	572,568	△322,568	

支出内訳

項目	前年度決算	予算	増減	備考
総会費用	0	0	0	総会予定なし
会議費	36,000	120,000	0	会議8回開催予定
会報28号発行	304,568	700,000	△395,432	
学院記念行事	232,000	120,000	112,000	入学式・召命の集い・卒業式・お祝い・お花
事業費	0	0	0	返信葉書郵便後納金：総会がないため
雑支出費	0	0	0	封筒代その他
合計	572,568	940,000	△367,432	

監査報告 会計監査の結果、金銭出納帳・領収書綴りに間違いありません。

令和3年3月30日 監査人 古賀由紀 中井照代

事務局より

残暑、ひとときわ身に配慮する頃となりました。同窓生の皆様はいかがお過ごしでしょうか。聖マリア学院同窓会は、今年46年目を迎えました。今年も聖マリア学院同窓会報(第28号)をお届けする事ができましたことを大変嬉しく思います。

新型コロナウイルスの影響により日常が大きく変化しました。このような状況下での同窓生の近状や思いを多くの皆様にご覧頂きたいと思ひ、今回各方面で活躍されている方々にお願ひし記事を作成し掲載させて頂きました。総会も開催することが難しい今日ですので、同窓生の活躍を励みにして頂ければと思ひます。

最後に「聖マリア同窓会」のFacebookの運用も始めております。不定期ではございますが更新しておりますので見て頂けますと幸いです。



★個人情報について

聖マリア学院同窓会では個人情報保護法を遵守し、個人情報同窓会活動、母校の振興と発展に寄与すること以外には一切使用しません。